

みえ防災塾

受講生募集

三重県の
防災・減災活動を担う
人材を育てます。



2019 年度

みえ防災塾

基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座

応用コース さきもり応用コース



みえの防災を担う人達へ。

みえ防災・減災センター長からのメッセージ



三重県・三重大学
みえ防災・減災センター長
三重大学
理事（研究・社会連携担当）・副学長
鶴岡 信治

三重県と三重大学は、平成 26 年 4 月から全国に先駆けた取組として、「三重県・三重大学 みえ防災・減災センター」を共同で発足させ、相互に連携・協力して、防災人材の育成・活用、地域・企業支援、情報収集・啓発、調査研究に取り組んでいます。

特に防災人材の育成・活用については、県と大学はこれまでも協働して「みえ防災コーディネーター育成講座」や「美し国おこし・三重さきもり塾」等の事業を行ってきましたが、平成 26 年度からは新たな人材育成プログラムとして「みえ防災塾」を開始し、これまで以上に人材の育成と活用に積極的に取り組んでいます。

「みえ防災塾」で学んだ人材が、それぞれの地域や職場で活躍している方々と連携・協力し、三重県地域の防災・減災活動に尽力していただけることを期待しています。

塾長からのメッセージ



三重大学工学研究科 准教授
地域圏防災・減災研究センター
副センター長
みえ防災塾 塾長
浅野 聡

三重県は、歴史、文化、自然に恵まれた暮らしやすい地域ですが、その一方で、自然災害が多い地域です。安心して住み続けられる地域にするためには、防災・減災対策を推進することが求められますが、そのためには、自然災害の怖さを知ることが大切です。

皆さんの自然災害の体験は、どのようなものでしょうか。私が初めて巨大災害の現場を経験したのは、阪神・淡路大震災です。神戸市内のある街区では、見渡す限り殆どの建物が倒壊と火災で全壊し、まち全体が焦げ付いた二オイに覆われており、そのショッキングな風景は今でも忘れることができません。この時の体験が、私が防災まちづくりに取り組む大きな契機となっています。

みえ防災塾は、多くの修了生を輩出しており、修了生は県内各地で活躍しています。私たちと一緒に、三重県における防災・減災活動の普及と推進に取り組みませんか。

みえ防災塾とは

このような人を育てます

みえ防災塾の「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」では「みえ防災コーディネーター」として防災・減災活動に関して、自然科学分野や人文社会科学分野の知識を持ち、平常時は地域や企業などで自主的に防災啓発活動などを行い、災害時は公的な組織と協働して、復旧・復興活動への支援を担う地域防災・減災活動に貢献できる人材を育成します。

「応用コース さきもり応用コース」では「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」の人材育成の目標に加えて、「三重のさきもり」として、先進的・実践的な防災・減災のための計画立案とそのマネジメントを行う能力を持つ地域防災・減災リーダーを養います。特に、演習や実習における少人数教育、対話を重視した教育を通して、現場で活躍するための応用力や実践力を養います。

両コースの修了生は、「みえ防災人材バンク」に登録することで、地域の防災・減災に関する人的ネットワークを築くことができます。

このような人を求めます

- ①防災・減災活動における問題解決の実践に情熱を持ち、三重県地域に貢献しようという気概を持った人
- ②自然、社会、文化、人間に対して幅広い関心を持ち、それらの基礎学力を持った人
- ③防災・減災活動を理解するために必要な自然科学、人文社会科学に興味を持ち、それらを応用する能力と自主的に学ぶ意欲を持った人
- ④防災・減災活動に対する旺盛な好奇心を持ち、真摯に問題を探求し続ける姿勢を持った人

地域で活躍していただきます

防災人材の活用促進<みえ防災人材バンク>

みえ防災・減災センターでは、みえ防災コーディネーターやみえ防災塾修了生に登録いただく「みえ防災人材バンク」を設け、防災人材の情報を集約し、市町・企業・地域等からの要請に応じて適切な人材を紹介することで、防災人材の活用を促進しています。



講義・演習の風景（ファシリテーション演習）



修了生の活動例 防災訓練での啓発活動



消防団員としても、たくさんの方が活躍

修了生による連携した防災活動

修了生が互いに情報交換を行うことにより、知識・能力のさらなる向上を図るとともに、連携・協力して三重県地域の防災力を高めることを目的に、学校教育現場への出前授業や地域での防災講座への講師派遣・応援、勉強会、情報共有など様々な活動に取り組んでいます。

みえ防災塾 2つのコース

■基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座

「基礎コース みえ防災コーディネーター育成講座」を修了すると「みえ防災コーディネーター」として認定されます。カリキュラムは、2つの科目（みえ防災コーディネーター育成講座の24講座）で構成され、定められた修了要件に従って履修します。

開講日（予定）	2019年度（日曜日 10:30～16:30）【全10回】
---------	-------------------------------

※希望者は他の科目をスキルアップ研修として受講可能：要申請

■基礎コース 出願と入学までの スケジュール

■障害等のある入塾志願者との事前相談	2019年3月25日（月）まで
■申込期間	2019年3月22日（金）～5月24日（金）
■受講決定	2019年5月27日（月）
■受講手続き	2019年6月2日（日）入学受付時に提出

入学	■受講期間	1年
▼	■定員	50名
2科目の履修	■検定料	なし
▼	■選考方法	申し込み多数の場合のみ書類選考
認定判定	■学費	受講料無料
▼	■認定	みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。 (みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録します)
「みえ防災コーディネーター」認定	■修了証書	みえ防災コーディネーターに認定された方には修了証書を交付します。
▼	■受講対象	これまでに みえ防災コーディネーターに 認定されていない方
修了証書交付	■受講申込	みえ防災・減災センター ホームページから申込用紙を ダウンロードしてください。 http://www.midimic.jp/



※詳細については申込用紙をご覧ください。

みえ防災塾 各コース共通

日程 (予定)	入学式	2019年 6月 2日（日）
	みえ防災コーディネーター認定式	2019年 10月 20日（日）
	修了式	2020年 3月 14日（土）

入学の対象 とする人物像	●三重県民の方（自主防災組織、自治会のリーダーなど）
	●県内の企業に勤務する人（災害対策や事業継続計画立案担当者など）
	●県内の公務員（災害対策や防災の施策立案担当者、教員など）
	●津市民防災大学、四日市市防災大学、伊勢市防災大学などの修了者

※「みえ防災コーディネーター」として認定された方は「みえ防災人材バンク」に登録することを必須とし、県内関係市町等へ登録者の名簿の提供を承諾していただきます。



■ 応用コース さきもり応用コース

「応用コース さきもり応用コース」を修了すると「三重のさきもり」として認定されます。
カリキュラムは5つの科目とさきもり集中セミナーから構成され、定められた修了要件に従って履修します。
なお、5科目中2科目は「基礎コースみえ防災コーディネーター育成講座」で構成されています。

開講日（予定）	2019年度 土曜日 13:00～18:00、日曜日 10:30～16:30【全23回】 *さきもり特別研究（ゼミ）は 10:00～12:00、または 16:30～18:30
---------	---

■ 応用コース 出願と入学までの スケジュール

■ 障害等のある入塾志願者との事前相談	2019年3月25日（月）まで
■ 出願資格審査申請期間	2019年3月18日（月）～3月25日（月）
■ 出願資格審査結果通知	2019年3月27日（水）以降
■ 出願期間	2019年3月22日（金）～4月12日（金）
■ 入塾選考	2019年4月20日（土）
■ 合格者の発表	2019年4月下旬
■ 入塾手続き	2019年5月7日（火）～5月14日（火）

入学	■ 履修期間 原則1年（最大2年まで延長可能）
▼	■ 定員 10名
5科目の履修と さきもり集中セミナー の受講 (さきもり特別研究による研究 成果、報告書作成を含む)	■ 検定料 9,800円
▼	■ 選考方法 小論文、面接
認定判定	■ 学費 75,200円（入学料 28,200円、授業料 47,000円）[予定]
▼	■ 認定 みえ防災コーディネーター認定は対象の24講座のうち18講座以上を受講すること。 (みえ防災コーディネーター認定者は、みえ防災人材バンクに登録します)
「みえ防災コーディネーター」認定	■ 修了 修了証書は、次の条件を満たした方に対して交付します。 ①5科目を受講して、各科目の70%以上に出席すること。 ②各履修科目について、試験で評価点6以上を取得すること。 ③さきもり集中セミナーを受講すること。
▼	■ 修了証書 さきもり応用コースを修了すると、修了証書を交付し、「三重のさきもり」として認定します。
研究成果報告書の 提出・発表	■ 履修証明書 さきもり応用コースを修了すると、学校教育法第105条に基づいた履修証明書を交付します。
▼	■ 出願資格 (1) 一般選考 ①学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条第1項に定める大学を卒業した者 ②個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められたもので2019年3月31日までに22歳に達するもの (2) 進学選考 ①三重大学「美（うま）し国おこし・三重さきもり塾」入門コースを修了した者 ②「みえ防災塾」みえ防災コーディネーターコース、みえ防災聴講コース、さきもり基礎コースを修了した方、またはさきもり基礎コース修了見込みの者
修了判定	
▼	
修了 修了証書交付 履修証明書交付 「三重のさきもり」認定	



■ 募集要項・出願書類綴の請求方法

(1) 郵送
本人の住所・氏名・郵便番号を明記して、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封し、みえ防災・減災センターあてに「みえ防災塾募集要項請求」と朱書きしてください。

(2) インターネット
みえ防災・減災センターホームページからダウンロードしてください。
<http://www.midimic.jp/>

必須科目	科目名	授業の目的・概要	開催予定日
応用コース さきもり応用コース	基礎コース 防災実践基礎特論	レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（災害をもたらす自然現象、三重県の防災・減災、ファシリテーション、避難所の運営）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。	6月2日（日）
			6月16日（日）
	みえ防災コーディネーター育成講座 防災実践基礎演習	レジリエンスの視点からみた防災・減災活動の基礎的事項（気象災害、防災情報の活用、初期対応、被災者支援、防災教育とリスクコミュニケーション、災害時の食事と心のケア、災害に備える地域力）について、近年の動向、最新の研究成果や技術開発の状況や事例を取り上げながら解説する。講義内容を踏まえて、受講生、講師の間で議論し、取り上げたテーマに関する理解を深める。	6月30日（日）
			7月7日（日）
			7月21日（日）
			8月4日（日）
			8月25日（日）
			9月29日（日）
			10月6日（日）
			10月20日（日）
防災実践応用特論	レジリエンスの視点を踏まえた地域における自然災害の特徴（ハザードのメカニズムを理解し、防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例を解説する。	6月15日（土）	
		11月9日（土）	
		11月30日（土）	
		12月7日（土）	
		1月11日（土）	
防災実践応用演習	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画（地震対策、風水害対策、企業の対応行動、災害医療体制、防災まちづくり）の策定および地域の現場での実践手法（タウンウォッチング、災害図上訓練、災害時要配慮者）について、演習課題を通じて計画策定の基本的な考え方や策定手法、実践手法の基礎を習得する。	1月25日（土）	
		7月13日（土）	
		8月17日（土）	
		9月7日（土）	
		10月26日（土）	
さきもり特別研究	防災計画あるいは実践に関する研究テーマを受講生自ら設定し、指導教員の指導のもとで、調査研究の方法、研究成果報告書の編集方法や発表方法を学習しながら研究成果報告書の作成に取り組み、レジリエンスの視点からみた防災・減災分野の課題発見と課題解決のための基礎的能力を修得する。	11月9日（土）	
		11月30日（土）	
さきもり 集中セミナー	レジリエンスの視点を踏まえた防災・減災のための各種計画の策定および地域の現場での実践手法について、必要な専門基礎知識や特徴的な実例について集中して解説する。	12月7日（土）	
		1月25日（土）	
			10月26日（土）
			2月1日（土）
			9月14日（土）
			12月21日（土）

学 習 内 容	講 師 陣 (予 定)
1 災害をもたらす自然現象(地震・津波・風水害)	葛葉泰久(生物資源学研究所)
2 三重県の防災・減災対策	三重県防災対策部防災企画・地域支援課職員
3 みえの防災文化づくり	川口淳(工学研究科)
4 災害時要配慮者対策	服部由佳(医学系研究科)
5 防災・災害復興における女性の視点	宗片恵美子(特定非営利活動法人イコールネット仙台)
6 ファシリテーション能力の向上	長谷川聡子(株式会社 Will Staff)
7 避難所の環境と健康	石井美恵子(国際医療福祉大学大学院保健医療学災害医療分野)
8 避難所運営ゲーム(HUG)	吉井博明(東京経済大学)
9 市町行政の取り組み	市町行政職員
10 防災教育の現状と展望～教育現場と地域の関わり～	川本孝司(津市立大三小学校)
11 防災情報の活用	気象庁 津地方気象台職員、防災科学技術研究所職員
12 災害時における心のケア	
13 ボランティア	山本康史(特定非営利活動法人 みえ防災市民会議)
14 津波から命を守るために	阿部郁男(常葉大学社会環境学部社会環境学科)
15 気象学、楽しく学べば、怖くない!	立花義裕(生物資源学研究所)
16 普通救命講習	津市消防本部 北消防署
17 災害医療と応急対応	武田多一(医学部附属病院)
18 被災者支援・図上訓練	南部美智代(特定非営利活動法人 災害ボランティアネットワーク鈴鹿)
19 地震災害史	寒川旭(産業技術総合研究所)
20 初動対応・図上訓練	日野宗門(Blog 防災・危機管理トレーニング)
21 災害時の食事	印南京子(三重県子ども心身発達医療センター)
22 My まっぼらん	三重県防災対策部防災企画・地域支援課職員
23 タウンウォッチング・避難対応	みえ防災・減災センター職員
24 自主防災組織等の先進事例	中村保親(津市南が丘地区自主防災協議会)
1-3 ハザードのメカニズム(地震)	鈴木康弘(名古屋大学)、水谷法美(名古屋大学)、宮岡邦任(教育学部)
4 企業の対応行動の計画	川合一明(地域地震情報株式会社)
5 災害医療体制の計画	溝口明(医学系研究科)、浅沼邦洋(医学部附属病院)
6 現場で使える実践手法(要配慮者)	磯和勅子(医学系研究科)
7-9 東日本大震災後の復興の課題	三宅諭(岩手大学)、中林一樹(首都大学東京・京都立大学/明治大学)、阿部寛之(社会福祉法人山田町社会福祉協議会)
10 防災まちづくりの計画	浅野聡(工学研究科)、大野研(教養教育院)、高田裕市(株式会社都市環境研究所)
1-3 地震対策の計画	花里利一(工学研究科)、山本貴正(愛知工業大学工学部建築学科)
4-6 風水害対策の計画	酒井俊典(生物資源学研究所)、飯島慈裕(生物資源学研究所)、沼本晋也(生物資源学研究所)
7-9 現場で使える実践手法(タウンウォッチング)	市古太郎(首都大学東京)
10-12 現場で使える実践手法(災害図上訓練)	瀧本浩一(山口大学)
13-14 企業の対応行動の計画(ワークショップ)	川合一明(地域地震情報株式会社)
15-16 災害医療体制の計画	小林哲(医学部附属病院)、丸山一男(医学系研究科)
17-18 現場で使える実践手法(要配慮者)(グループディスカッション)	平松万由子(医学系研究科) 服部由佳(医学系研究科)、北川亜希子(医学系研究科)
19-20 防災まちづくりの計画(ワークショップ)	浅野聡(工学研究科)、大野研(教養教育院)、高田裕市(株式会社都市環境研究所)
1 研究指導ゼミ(研究グループ分け)	
2 研究指導ゼミ(研究ガイダンス)	
3-6 研究指導ゼミ(グループ別指導)	各指導教員
7-8 中間報告会	
9-13 研究指導ゼミ(グループ別指導)	
14-15 研究成果報告会	
1 ファシリテーションの基本と実践(ワークショップ)	浅海義治(練馬みどりのまちづくりセンター)
2 災害史	塚本明(人文学部)
2 東海地方の復興対策の展望	国土交通省中部地方整備局職員
2 防災関連制度の変遷	津久井進(芦屋西宮市民法律事務所)
2 警察の対応活動の現状と課題	三重県警察本部職員

は、「専門職防災研修」と合同開催。

※講師の都合により、講座日程などが変更される場合があります。



文部科学大臣認定
「職業実践力育成プログラム」(BP)に採択(平成28年12月)

「職業実践力育成プログラム(BP)」とは…

大学・大学院・短大・高等専門学校における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラム

【目的】大学・大学院・短大・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会を拡大すること。(教育再生実行会議の提言を制度化)

【認定】文部科学大臣が認定するプログラム

本プログラムの特徴

参考:全国の認定プログラム件数 合計183件(平成27~28年度)

- ・「防災分野」の認定プログラムであること。
- ・大学院(工学研究科 特別の課程)に設置したプログラムであること。
- ・経営、産業、医療、福祉等の分野が多い中で、「防災分野」をテーマとしたオリジナリティに富む内容であること。



ジャパン・レジリエンス・アワード2015(強靱化大賞)の 金賞(教育機関部門)を受賞!

内閣府が進める「国土強靱化基本計画」を産学官民のオールジャパンで推進することを目的に「一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会」が設立され、強靱化(レジリエンス)社会の構築に向けた取り組みとして「ジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)」が創設されました。三重大学が三重県、市町、企業、県民と協働して進めてきた「美し国おこし・三重さきもり塾」と「美し国おこし・三重さきもり倶楽部」による防災人材育成・実践プロジェクトを応募したところ、全国約200件の応募の中から大変に高い評価を受けて「金賞(教育機関部門)」を受賞することができました。



アクセス

- 近鉄江戸橋(三重大学前)駅から徒歩で約20分
- 津駅から 三重交通路線バスで約15分
- 津駅から タクシーで約10分

お問い合わせ先

みえ防災・減災センター

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学 地域イノベーション研究開発拠点 A 棟 3階
TEL: 059-231-9952
FAX: 059-231-9954
Mail: center@dimio.mie-u.ac.jp



<http://www.midimic.jp>